

医学部附属病院・医学系研究科

—がんに強い地域社会の構築— がんピアサポーター養成研修修了者の活動支援モデルの構築

担当学部等 医学部附属病院・医学系研究科

担当学科等 附属病院患者支援センター・集中治療部
医学系研究科麻酔神経科学分野

担当者 神田 清子 教授・二渡 玉江 教授・藤本 桂子 助教・堀越 政孝 助教・菊地 沙織 非常勤研究員・塚本 憲史 センター長・角田 明美 看護師長

◎事業概要

群馬県ではがんに強い地域社会の構築を目指し、平成25年3月第二次「がん対策推進計画」を策定。がん経験者の視点でがん罹患者を支援するピアサポーターが重要となる。群馬県では平成24年から養成研修を開始し、平成26年3月時点で修了生は約87名になっている。平成25年9月に派遣事業のシステム化ができ活動の基盤はできた。しかし活動に参加したのは延べ12名であり活動の場を拡大することが喫緊の課題であった。

今年度は活用成果の研究を生かし、啓発活動を行い、バイオニアとして地域の医療機関をつなぐことが群馬大学の役割である。

そして養成研修修了者ががん相談や社会の中で生き生きと活動できるように推進する。

◎実施事業等

1. がんピアサポート活動の評価

ピアサポーター活動をした者、受け入れた者の反応を調査し、内容分析を行った。結果、ピアサポーターは研修を生かした活動遂行と活動を通じ成長していることが明らかになった。また受け入れ施設相談員のインタビューでは活用の効果を実証するデータが得られた。この結果を研修会や学会で公表し、活動の有効性を示した。

2. 活動の役割拡大への支援

パンフレット「ぐんまで活躍するがんピアサポーターを知ろう！～体験を共有する仲間がいます～」を作成し、県内関連施設に配布ピアサポーターの周知に努めた。

県や同窓会との連携を深め、「ぴあサポぐんま」の主催による「地域サロン」3カ所の活動が広がった。また、受け入れ施設も6カ所に拡大し、述べピアサポーター数は平成26年12月までに162名になった。

3. スキルアップシステム整備

群馬県フォローアップ研修や同窓会によりスキルアップシステムが整備された。

◎期待される成果

1. がんピアサポーターの有効性が検証される。

フォローアップ研修、学会等で研究成果を示すことで、安心してピアサポーターを活用したいと思うことにつながる

2. エビデンスを提示することで本活動を全県的に発展させることが可能となる

3. がんの経験者の視点に立ち、がんに悩み、不安をつのらせるがん罹患者と家族への支援になる。

この成果はがんピアサポーター養成研修修了者の活動支援モデル(図)として適切であることが証明でき、がんサバイバーの新たな役割拡大になり、その結果、がんに強い地域社会の構築となる可能性があると思われる。